

令和6年度きみの地域づくり学校座学編第2回実施報告

【日時】2024年6月1日（土）、2日（日）

【場所】美里の湯 かじか荘

【参加者】受講生29人（社会人12人、大学生・大学院生17人）、

スタッフ9人、運営協議会会員5人、その他（町議会議員等）5人

計48人

【内容】

≪第4講≫

「農業の新たな担い手」

講師：和歌山大学 教授 岸上 光克 氏

講義内容

農業の担い手及び、一次産業における担い手の育成についてご講義いただきました。専業農家が担い手の中心でありながらも、高齢化や担い手が減少している中で、新たに位置づけられた多様な担い手の事例についてもお話しいただきました。また、水産大学校での担い手育成のご経験にも触れられ、一次産業の担い手育成の厳しさについても語っていただきました。



受講生の感想（抜粋）

- ・半林半農を実践しマルチワーカーとして歩んでいきたい（地域おこし協力隊）
- ・給与や休暇をとりながら農業ができるという点で法人化した営農組織が増加傾向にあるというのは納得できる（行政職員）
- ・現代において「担い手」がどれだけ必要とされており、どのような参加の方法があるのかを認識し、他人事でないということを実感できました（大学生）

≪第5講≫

「親元就農でのブランディングと地域との関わり方」

講師：株式会社善兵衛農園 代表取締役 井上 信太郎 氏

講義内容

「田村みかん」で有名な湯浅町田村地域において農園を継ぎ、個選農家として、販路や広報、加工等の新しい取り組みによる農園のブランディングと、地域に人を呼ぶためのコミュニティづくりの実践（拠点づくり、農村ワーキングホリデー、シェアハウス等）についてご講義いただきました。



受講生の感想（抜粋）

- ・やりたいことをするけれど、地域に還元できるやり方という点が岸上先生のお話の中の「担い手」（農業の担い手は農村の担い手でもある）だと強く感じました（行政職員）

- ・こんなにも夢のある農家があるのかと感じました（大学生）
- ・今はぼんやりとしたビジョンを「地域の活性化をしたい」という思いを貫くことで、地元のために何か成しとげられるような人になりたいという気持ちが強くなりました（大学生）



井上講師がピワを持って来てくださり、夕食時に試食しました。ストローで種を取る方法もレクチャーいただき、新鮮な体験ができました。

《第6講》

「移住と緑化木栽培と地域」

講師：向ファーム 代表 向 博史 氏

講義内容

13年前に紀美野町に移住し、新規就農で緑化木栽培を始められた向講師から、植木や切花等の緑化木栽培の実際について、ご経験を踏まえてご講演いただきました。また、移住者という立場から、地域との関わりにおいて大事にしてきたことについてもお話しいただきました。



受講生の感想（抜粋）

- ・どちらかというニッチな産業になるかと思いましたが、実は経済面からみても見通しの明るそうな感じだと思います（民間企業）
- ・「凡事徹底を貫く」、「当たり前のことを当たり前」の部分が印象に残っています（大学生）
- ・Iターンで紀美野町に移住し新規就農された方のお話を聞くことがこれまでなかったので、移住した人の実体験・新規就農した人の実体験と、2つの視点から地域に入る心意気を学ぶことができました（大学生）

【事務局（担当：藤井）より】

農林業の「担い手」に着目した回であり、専業農家はかなり高齢化、減少している一方で、多様な担い手もつ可能性について学びました。新規就農や継承をとおして、農林業の新たな担い手となったお2人は、農業に実直に取り組まれたり、農業とその農業から派生して新たな取り組みを行われたりと、それぞれのスタイルの違いを感じました。また、質疑応答では、次の「担い手」についての質問もあり、事業承継についても考えなければならず、大きな課題であることを改めて考えさせられました。